



## For the Better Internet

総合通信基盤局電気通信事業部  
消費者行政第二課課長補佐

**池田 光翼** IKEDA Kohsuke

平成 28年 4月 総務省採用  
同 総合通信基盤局電気通信事業部料金サービス課  
平成 29年 7月 同 行政評価局政策評価課客観性担保評価推進室  
平成 30年 6月 同 大臣官房秘書課  
令和 元年 7月 同 サイバーセキュリティ統括官付参事官付主査  
令和 3年 7月 現職

### 企業のネットが星を被っても

「企業のネットが星を被い、電子や光が駆け巡っても 国家や民族が消えてなくなる程 情報化されていない近未来」(土郎正宗、攻殻機動隊、講談社、1991)。この作品が世に出された90年代から今日に至るまでの30年間、インターネットは、「自律・分散・協調」をスローガンに急速に張り巡らされ、隔地に瞬時に情報を伝達するこの社会の神経として機能するだけでなく、ヒトの認識、思考、感情、行動にも大きく影響を及ぼす存在となっています。

インターネットが深く社会に根ざすにつれ、それがもたらす悪影響や弊害も多様化・複雑化しています。インターネット上で増幅されやすいヒトの怒りや不安といった感情は、時に誹謗中傷として他人に襲いかかります。国によっては、情報を統制下に置き自国に有利な情報を流布し、人々を煽動しようとする国もあります。今や、情報のやりとりが特定の巨大企業に集中し、私たちのインターネット上の活動は、企業の定めるルールに左右されます。

### For the Better Internet

国家すら相対化するインターネットという巨大

な存在に対して、国の行政は国民の利益のためにいかに向き合うべきでしょうか。私は、いま、総務省で、こうした大きな問に直結する課題に携わっています。

例えば、インターネット上の誹謗中傷という問題に関して、インターネットという自由な空間の魅力を損なわずに、問題となる投稿の流通を抑制し、被害者の実効的な被害回復手段の確保するための最低限のルールは何かという課題があります。インターネットが多くの人の身近に関わる存在であるからこそ、関わりを持つ主体やその意見も様々です。ある時期の予定を振り返ってみても、誹謗中傷に苦しむ方との意見交換、SNS事業者とどこまで核心に迫る対応ができるかの協議、関心のある国会議員に政策を説明、海外政府機関との政策に関する情報交換、憲法、民法、情報工学、社会学、行動経済学、それぞれの領域の最先端の学識者との今後のあるべきインターネット上の言論空間の在り方についての議論と、多岐にわたるステークホルダーとのやりとりがありました。行政官として、こうした幅広い意見はもちろん、声にならない声もくみながら、今後のインターネットと社会の関係のあるべき姿に対する行政からの関わり方について、理想を議論し、それを現実にするためのプロセスを日夜進めています。

国の行政の立場からの特徴として、理想を議論するだけでなく、最後には、それを具体的な制度などの形にするという、理想家と実務家の二つの側面を兼ね備えていることがあると思います。

これは、bestなインターネットは存在せず、存在するのはbetterなインターネットだ、ということと、案外、親和性があることであるとともに、国の行政の立場からこのテーマに携わることの醍醐味だと思います。

### それでも、この社会の神経を

今後の数十年を大きく左右しかねないインターネットにまつわる政策上の意思決定に携わること、日々、緊張感とやりがいを覚えています。きっとこれからも、情報通信技術はますます高度化し、簡単には解決できない新たな課題も次々と生じるはずです。それでも、人の権利やこの社会の機能を守るために、行政官として社会の課題に最後まで挑み続けることは、インターネットというこの社会の神経、コミュニケーションという人間の基本的な営みを支えることであり、この国、この時代に生まれたからこそ果たすことができる役割だと確信しています。

### 情報通信×国際 ～入省時の「初心」～

総務省はドメスティックな省庁なのでしょうか？  
答えはNoです。私は学生時代、初めて参加した総務省の説明会にて、大使館や国際機関など海外でも活躍している先輩方と出会い、ICT(情報通信技術)インフラの海外展開など国際業務も含めた仕事の幅広さ、総務省の多様なキャリアパスに魅力を感じました。これからはデジタルが世界を変える時代。情報通信政策の専門性を高めつつ、国際的にも活躍したい、それが総務省に入ることを決めた「初心」でした。

### ICTのフロンティアを切り拓く

入省1年目に配属された部署は、国内の通信政策を担う事業政策課。電気通信事業法の改正に初めて携わる機会となりました。一見ドメスティックに見える国内の通信法ですが、法改正の内容は、海外のプラットフォームの台頭を念頭に、いかに皆が安心・安全に通信サービスを利用できるか、考え抜く仕事でした。インターネットに国境はありません。時に海外のICT企業と交渉を重ねる機会もあり、国内の通信政策のその先に、国と国の利害

関係をぶつけ合う交渉の世界が広がっていることを実感しました。

### 採用担当として全国を飛び回る日々

入省3年目に採用担当として、年間100回以上の説明会を通じて、何千人もの志ある学生の皆さんと出会い、今度は私が総務省の一員として、仕事の魅力を伝える機会を得ました。総務省の情報通信行政は、ローカルからグローバルまで、攻めの振興から守りの規制まで守備範囲が広く、日本全国におけるインターネット環境の整備、5Gの推進、誰もがICTを活用できるための支援、ICTインフラの海外展開や経済安全保障などの国際戦略、サイバーセキュリティ、放送行政の未来像の検討など、その政策はどれも魅力的です。

### 国際交渉のゲームプレイヤー～これからの「夢」～

現在、私は北米係長として、ICT分野の国際交渉を担当しています。総務省が日本側の議長としてリードする「インターネットエコノミーに関する日米政策協力対話」では、アジェンダの設定から成果文書の取りまとめまで深く携わります。仕事内容は、

単に米国と交渉するだけにとどまりません。日米連携を軸に今度はどうのようにG7やEU諸国などにアプローチするのか戦略を練り、地球儀を俯瞰する交渉を行います。5Gや次世代の情報通信技術の国際競争力を高めるために、日本はどのように世界と連携していくべきか。特定の第三国が基地局や携帯端末、ソフトウェアなどのサプライチェーンを垂直統合的に支配しないよう、いかにベンダーの多様性を確保し競争を促進するのか。自らのアンテナを高くして、国際情勢を深く洞察する力が求められます。私自身、2023年夏から英国に2年間留学する予定です。今後も、国内の通信政策とその先の国際戦略に対して、アンテナを高く視野を広く向けて行きます。皆さんも総務省で共に情報通信政策の未来を切り拓きませんか。



米国出張(ニューヨーク国連本部にて)



## 「初心」と「夢」

国際戦略局国際経済課  
北米係長

**福田 広樹** FUKUDA Hiroki

平成 31年 4月 総務省採用  
同 総合通信基盤局電気通信事業部事業政策課  
令和 2年 5月 同 行政評価局政策評価課客観性担保評価推進室  
令和 3年 6月 同 大臣官房秘書課  
令和 4年 7月 現職